



会員紹介シリーズ (Vol.1)

OIC-PFでは、2023年7月現在、各種団体44、個人11名の方々入会されています。本ニュースレターでは、会員の皆さんの活動などご紹介していきたいと思ひます。

第1回はスリランカから日本にいられて教育分野で活躍され、NPO法人を立ち上げられた、ディープ・チャンドラールさんをご紹介します。日本にいられたきっかけやNGO活動についてお聞きしました。

NPO法人 日本スリランカ次世代育成サポート
理事長 ディープ・チャンドラールさん



チャンドラール先生は、スリランカのご出身ですが、 沖縄にいられたきっかけは何ですか？

私は留学のために来日し、神戸大学で博士課程を修了しました。その後同じ大学で研究助手として勤めていましたが、1995年に雇用期間が終了しました。新たな就職先を探していたら、沖縄大学が教員募集をしていて、応募したところ運よく採用されました。1998年4月から沖縄大学に勤めることになりました。

今のNPOを設立したきっかけは何ですか？

2010年に「沖縄スリランカ友好協会」を設立し、勉強会、スタディーツアー、中学生交流プロジェクトやスリランカ命の水プロジェクト、教員交流など次世代育成につながる活動を行ってきました。活動を続ける中で、スリランカから参加した学生・教員や行政官で日本の教育に関心を持っている人が増えてきました。また沖縄や日本にはスリランカの風土や文化に関心を持っているメンバーもいました。こうしたネットワークを活かし、人材育成のノウハウ等を共有し、次世代が夢と希望が持てるように継続的に支援できればと思ひ、2020年に「NPO法人日本スリランカ次世代育成サポート」を設立しました。お蔭様でスリランカの「きぼう国際学校」との交流と教育支援ができるようになりました。

活動を通して嬉しかったことは何ですか？

当時交流の対象になっていたスリランカ人中学生が、今や大学生や社会人になっています。今年の2月にそのメンバーと再会し、「今度は私たちの番です。できる範囲で何でも協力します。おっしゃってください。」と言われたことが嬉しかったです。実際に協力を駆けつけて来た人もいました。それから、今年の1月にスリランカの政府機関からこちらに手紙が届きました。ある中学生が家庭の事情で学業継続が困難になって、奨学金が欲しいと大統領宛てに手紙を書いたようです。その中学生に対して何か協力できないか検討してください、という内容でした。このように見知らぬ子どもとその家族との出会いもこのNPOによる何らかの縁によるものだと思います。その縁結びもNPOによってです。

活動を通してのお困りごと、今後の展望をお聞かせください。

やらなければならない仕事が多く、みんながボランティアで人手が足りない状況です。もちろん資金不足もあります。

スリランカは知識・学歴偏重社会で、体験学習、キャリア教育や対話型教育はほとんど行われていないです。改善の第一歩として私たちが出した事業提案書が、JICAで採択されました。「スリランカのきぼう国際学校で日本式特別活動（特活）を取り入れた新しい教育モデルを構築するプロジェクト」を実施し、学生の課題解決能力や実践能力を育むことに貢献したいです。日本の教育の良さに焦点を当てていきます。

OIC-PF 協働プロジェクト 始動！！

OIC-PFでは、これまで会員同士の活動をそれぞれの分野ごとに「分科会」として進めてきましたが、2023年度より少し形をかえて「協働プロジェクト」として進めることとしました。会員が実施したい社会課題解決に関する活動を、会員がリーダーとなってプロジェクトとして活動するものです。

去る5月30日に開催された「第2回おきなわ国際協力プラットフォーム協議会」では、現在提案されている6つの「協働プロジェクト」について各リーダーがプレゼンテーションを行い、ワークショップで参加者との意見交換を行いました。

1 外国につながる子どもたちへの支援もつなぐプロジェクト

～那覇市において外国につながる子どもたちを支援するつなぐを生み出したい～

2 住みまーるOKINAWA

～沖縄に在住する外国人の住環境を取り巻く課題について取り組みたい～

3 ハッピーハンドベーカーリー支援プロジェクト

～フィリピン、カリंगा県、タブック市における障害者就労支援事業（ベーカーリー事業）の支援を強化したい～

4 栄養教育プロジェクト

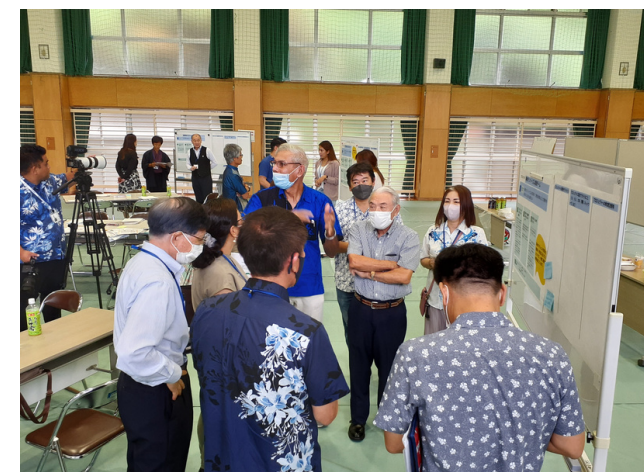
～フィリピンに食育の知識を届けたい～

5 ちりひるゆんプロジェクト

～沖縄の環境を守っていききたい～

6 ボランツリズム推進プロジェクト

～旅先でボランティア活動を行うことで、沖縄にポジティブなインパクトを発揮したい～



事務局では、マッチングをはじめ、協働プロジェクトのサポートを行っています。

“一緒にプロジェクトをやってみよう”と賛同される会員さんは事務局にご連絡下さい。お待ちしております。

